



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4333 号 2018.4.22 発行

作品展 独自の世界、繊細に描く 障害者施設の5人、西区・泉美術館で28日から 〃
 広島 毎日新聞 2018年4月21日
 頭に思い浮かんだ風景をカラフルなタッチで描く水ノ上
 茉優さん=広島市安佐南区伴東3の太田川学園で、元田禎
 撮影

知的障害者の支援施設「太田川学園」（安佐南区伴東3）のアーティスト5人の作品を展示する「ハナサクモリの芸術家たち」が28日、西区商工センター2の泉美術館で始まる。既成概念にとられない障害者のアートは全国的に注目を集めており、今回の展覧会に出品する5人も、それぞれが独自の描法で独創的な世界を表現している。【元田禎】

水ノ上茉優（まゆ）さん（24）▽池辺純一さん（34）▽小笠原英二郎さん（48）▽香川定之さん（73）▽横田勲さん（77）の5人。



水ノ上さんの作

品は、繊細でカラフルな構図が特徴。出品作「ハッピーエンド」（2016年12月制作）は中央に2羽の鳥を配し、周囲を色とりどりの昆虫と満開の植物で彩った。アイドルグループ「TOKIO」の歌が好きという水ノ上さんは「これは宙船（そらふね）。豪華な船がすごいです。黄金の翼、一生懸命描いた。巨大なオール。恋する男女にキューピッド。大好きな牛や馬も描いたよ。天空の扉を開けるための鍵も」と、施設内で別の作品を手に説明した。

施設内の壁面に描かれた小笠原英二郎さんの作品=広島市安佐南区伴東3の太田川学園で、元田禎撮影

独特の線と色彩に特徴がある横田さんは、70歳を超えてからアートに取り組んだ。発語しない小笠原さんは、施設内の壁一面に作品を描いている。「言葉を発しないので題材は分からないが、ご家族を描いているのでは」と支援員



の羽島智裕さん（39）は語る。

監修する広島市立大教授で彫刻家の伊東敏光さんは「太田川学園の作家たちは極めて主観的な世界に棲（す）み続けることで、個性や独創性を失わずに絵を描き続けているように思う」とコメント。学園の内田健二理事長（65）は「障害者が描いたという視点ではなく、純粋な目で作品を鑑賞してほしい」と話している。

6月10日まで。入館料は一般300円、学生150円、中学生以下無料。月曜休館（4月30日は開館）。問い合わせは泉美術館（082・276・2600）。

障害者40人の力作並ぶ 兵庫県議会で障害者のアート展 産経新聞 2018年4月21日



障害者が制作した絵画作品が並ぶ会場＝神戸市中央区

兵庫県内在住の障害者の芸術作品を集めたアート展が、県議会が入る県庁3号館1階ロビー（神戸市中央区）で開かれ、絵画や写真などの力作約40点が並んでいる。6月15日まで。

県の主催で、障害者の芸術活動を支援する事業の一環。毎年開催しており、今年で13回目。

県内の10～60代の知的障害者らが制作し、力強い筆致で書かれた書道作品や独特の色使いで書かれた水彩画などを展示。最優秀の議長賞を受賞した柏原誠一さんの作品は、紫色の夕焼けを背景に飛ぶ鳥を撮影した美しい写真で、来場者は思わず見入っていた。

神戸市内に住む田中英雄さん（78）は「どの作品も独自の世界観を持っていて感動した」と話していた。

午前10時～午後5時（最終日は午後3時まで）。入場無料。問い合わせは県議会事務局（(電) 078・362・9402）。

眼鏡型端末 文字読む喜び「オトングラス」普及へ資金募る



毎日新聞 2018年4月21日
オトングラスを体験する人たち＝(c) KIOKU Keizo、協力・金沢21世紀美術館、オトングラス提供

全盲記者も期待 5月3日までクラウドファンディング

簡単な操作で文字を読み上げる眼鏡型端末「OTON GLASS（オトングラス）」を開発・販売する株式会社オトングラス（東京都港区）が、端末をより多くの視覚障害者に届けたいと、1000万円を目標にク

ラウドファンディングを実施している。20日午後10時現在、276万円に到達。財団や企業などからの大口の寄付も呼びかけている。締め切りは5月3日。

オトングラスは、端末に内蔵したカメラで撮影した文字を、文字認識技術でテキストデータにし音声に変換する。眼鏡のように装着して読みたい文字の方向に顔を向け、つるの部分のボタンを押せば、読み上げてくれる仕組みだ。

株式会社オトングラス代表取締役の島影圭佑さん＝(c) HAJIME Kato、オトングラス提供



開発のきっかけは、2012年、同社代表取締役の島影圭佑さん（26）の父が脳梗塞（こうそく）を発症し、失読症になったことだった。父の生活に役立てようと、13年から試作をスタート。端末は、関西弁の「父＝おとん」と音声の「音」をかけて「オトングラス」と名付けた。その後、父の読む力はリハビリで回復して「オトングラス」を必要としなくなったが、試作段階で出会った多くの視覚障害者のニーズに応じたいと、開発は継続。これまでも受注生産で10台程度販売したという。

とはいえ、開発に費用がかかるため、販売価格が高額になることが普及のネックとなっている。そこで、より多くの視覚障害者に「オトングラス」を手にとってもらえるようにと、クラウドファンディングに踏み切ることにした。

集まった資金で、現在開発中の新バージョンを製造し、視覚障害者に貸与・配布する。1000万円が集まれば、50人に届けられるという。この人たちに日常生活で利用して



もらうことで実用性を立証し、自治体から福祉機器の認定を受けることも目指す。認定され、利用者が低価格で購入できるようになれば、広範囲への普及が可能になり、将来的に失読症の人や視力の低下した高齢者らへの恩恵も期待できる。

オトングラスの試作3号機。クラウドファンディングによって提供されるのは次代モデルになる＝(c) K I O K U K e i z o、協力・金沢21世紀美術館、オトングラス提供

全盲で、自身もオトングラスを使用した毎日新聞ユニバーサロンの岩下恭士記者は、白杖（はくじょう）や盲導犬で片手がふさがっていることの多い視覚障害者にとって、使い勝手が良いことを指摘。「従来、ヘルパーに（何があるのか）教えてもらうのを待つ受け身の姿勢だった目の見えない人が、自分で散歩して見つけたものを他の人に教えられるようになるかもしれない」と、楽しみが広がる希望を持っている。

寄付額に応じ、オリジナルステッカーやイベントへの招待などの特典がある。詳細はクラウドファンディングのサイト（<https://camp-fire.jp/projects/view/25370>）で。「オトングラス」は日本点字図書館（東京都新宿区高田馬場）や日本盲人会連合（同区西早稲田）、神戸アイセンター（神戸市中央区）に常設されており、使用体験できる。【岡本同世】

最新技術の圃場公開 ICTポリ培地 多様な担い手確保へ 近畿大・奈良県



日本農業新聞 2018年04月21日
ポリエステル培地での栽培を説明する林教授（右）（20日、奈良市で）

近畿大学農学部と奈良県は20日、奈良市の同大キャンパスで、多様な担い手の就農を支援するため、長期間使えるポリエステル培地や情報通信技術（ICT）など、最新技術を使った園芸栽培の実証圃場（ほじょう）を公開した。作業の手間を省いて高齢者や障害者、若年性認知症の人らが容易に農業ができるようにし、不足する担い手確保につなげるのが狙い。

圃場は2017年度に県の予算約3000万円を投じ、整備した。この日は、農家や行政関係者ら約30人が参加した。

同大農学部の林孝洋教授がポリエステル培地での栽培を説明。東日本大震災の被災地、福島県で花き生産が軌道に乗っていることに触れ「土を使わないので風評被害に苦しむ地域にも向く。軽量で作業負担が少ない高設ベンチでの栽培が可能だ。半永久的に使え、連作障害が出にくい」と利点を強調した。

ICTを活用した養液土耕栽培を同大大学院農学研究科の

野々村照雄教授が解説。園芸施設は2棟あり計3アールで設置費は1300万円。メロンとトマトを栽培し、水や肥料、温度などを自動管理できる。現在、生産効率の良い養液量などのデータを収集中で「個人の経験や勘に頼らない生産で就農初期から所得の安定へつなげたい」と話した。

養液量を調整することで付加価値を高めることも可能とし、栽培だけでなく加工、販売のマニュアル化も検討している。

今年度は試験栽培で、ポリエステル培地とICTの技術のマニュアル化に力を注ぐ。年内中にもポリエステル培地を活用した同大学生による農業ベンチャー法人を設立し、県内の農業経営体を連携する考えだ。

被害者の主観映像で 映画「私は絶対許さない」 監督 和田 秀樹
大阪日日新聞 2018年4月21日



レイプとトラウマと
「今までで一番監督の仕事
ができたと思う」と話す和田
秀樹監督＝大阪・十三の第七
藝術劇場
西川可奈子＝(C)「私は絶対許
さない」製作委員会



15歳で5人の男にレ
イプされた少女のその後
の生き方を描いた映画

「私は絶対許さない」(R-18指定、緑鉄配給)が28日から、大阪・十三の第七藝術劇場で公開される。センセーショナルな実話の映画化で「事件でトラウマを抱えた女性を、被害者の主観映像で描いた」という大阪出身の和田秀樹監督(57)に話を聞いた。

和田監督は東大医学部卒の精神科医で、劇映画「受験のシンデレラ」(2007年)で初メガホンを取って映画監督デビュー。国内外で映画賞を受けた後、介護離職を扱った2作目『わたし』の人生 我が命のタンゴ(13年)ではモナコ国際映画祭で人道的作品監督賞と秋吉久美子が主演女優賞を受けており、映画監督としての実力が高く評価された。

「映画を見るのが好きで、いつの間にかこの世界に入っていた。今回の作品は若い頃アメリカに留学し精神分析で『トラウマ』をテーマに学んだとき、性的虐待を受けた人たちの話を多く聞いたことを思い出しながら考えた。日本の雪村葉子さんが書いた同名手記を読んで、これを映画化することで何か訴えられるのではないかと思った」

東北の田舎の中学3年生だった雪村さんが5人の若者に集団レイプされた。彼女は手記に「15歳の元日、私は死んだ」と書いて、その後5人の犯人たちを恨みながら生きてきた。「彼女は30代後半の今、昼間は看護師、夜はSMクラブの女王として働いている。なぜそうなったのか。この映画を通して、性暴力の被害者と、その家族や加害者のことを考え、問題提起したいと思う」

15歳の少女を西川可奈子、大人になってからを平塚千瑛が演じている。「どちらもまだ若手女優であるが、よく引き受けて出演してくれた。特に15歳のときの事件の現場を再現するシーンでは、それをどう見せるかを考え結局、カメラマンの高間賢治さんと相談し主人公の主観映像で撮ることにした。それはどんなひどい現場だったろうと思いながら」

雪村さんは手記もそうだが、映画でも加害者のレイプ犯5人の実名を出すことを条件にしている。「激しい恨みがこもっているのはもちろんだが、レイプ場面の撮影に雪村さんを誘ったとき、断られると思っていたら迷いながらも『行く』とおっしゃった。撮影現場で彼女が何を考えていたのか想像するのは難しい」

レイプ事件直後、汚れた服で家に戻ったとき、母親(美保純)に怒鳴られ、父親(友川

カズキ)に殴られた。「これが二次被害で、せめて両親が彼女に優しく対処していたらその後は変わっていたかもしれない。結局、彼女は援助交際を受ける中年男(隆大介)や、風俗店で出会い結婚する中年男(佐野史郎)と短い縁を持つが、決して恵まれたとはいえない。彼女の復讐(ふくしゅう)というか、闘いはこれからも続くと思う」

タイトルを決めたのは原作者自身で「これしかない」という思いがこもっている。和田監督が彼女のために完全主観撮影にチャレンジした作品である。

旧優生保護法 優生手術の報告書発見 県内初 1951年、34歳女性に /奈良

毎日新聞 2018年4月21日

旧優生保護法(1948~96年)下で障害者らへの強制的な不妊手術が行われていた問題で、県は20日、51年に当時34歳の女性が県内で優生手術を受けたとする実施報告書が見つかったと発表した。

県内で報告書が見つかったのは初めて。県内の医療機関から手術を実施したとする内容で、県庁本庁舎の地下書庫で見つかった書類を精査して判明した。国に残る資料では県内で20人が実際に手術をしたとされるが、県は「詳細は分からない」としている。

また、新たに61年に当時14歳の男性に対し、県優生保護審査会が手術が適当と決定した通知書が見つかった。県内の手術対象者と推定できるのは37人(女性26、男性11)となった。

県の3月の発表後、本人や遺族ら関係者からの問い合わせはないという。県健康推進課(0742・27・8661)。**【新宮達】**

<障害者支援>東北被災地でも課題 避難所バリアフリー化や人材確保、行政に現状訴え

河北新報 2018年4月21日

災害発生時や復旧復興の過程で障害者をどう支えるかという重い課題は、東日本大震災から7年が経過した東北の被災地でもなかなか解消されていない。福祉関係者は避難所のバリアフリー化や、ヘルパーら福祉を担う人材の確保を行政側に訴え続けている。

障害者の自立生活をサポートするNPO「CILTすけっと」(仙台市)は2011年3月末、宮城県内の福祉関係団体でつくる「被災地障がい者センターみやぎ」の事務局となり、ボランティアと共に被災者への物資配布や、生活相談などを担ってきた。

行政側にも定期的に要望活動を重ね、今年3月には仙台市に1次避難所のバリアフリー化推進や、避難訓練に障害者が参加できる体制づくりなどを求めた。杉山裕信事務局長は「取り組みはまだ不十分。震災の教訓を生かせるよう提案を続ける」と話す。

東京電力福島第1原発事故の被害を受けた福島県では、避難による人口減の影響もあり、ヘルパーら福祉の担い手不足が続く。南相馬市で障害者通所施設を運営するNPO「さぼーとセンターぴあ」の郡信子施設長は「行政に課題は認識してもらっているが、特に若手が少ない状況は変わらない」と実情を説明する。

<熊本地震>益城のボランティア団体 障害者支援新たな形で「孤立防止へ継続的に」

河北新報 2018年4月21日

熊本地震の被災地で障害者をサポートしている民間福祉団体が、地震から2年を経て新たな支援体制を築こうとしている。ボランティア中心の組織から福祉サービス事業者への転換を図りつつ、被災者の生活相談に応じる準備を進める。代表の東俊裕さん(65)は「障害者が孤立しないよう継続的に支えたい」と話す。(報道部・小沢邦嘉)

団体は地震直後の2016年4月に熊本市で発足した「被災地障害者センターくまもと」。熊本県益城(ましき)町に17年2月、拠点施設「障害者がともに暮らせる地域創生館」

を設け、常勤職員 6 人が電話で相談を受けながら、全国からのボランティアと被災家屋の片付け、入浴介助などを支援した。

益城町を中心に熊本市などでも活動し、17年度の支援件数は297件に上った。ただ、最盛期は1日20～25人に上ったボランティアは日を追って減少。運営の見直しが不可避となる中、新たに社団法人として障害者の訪問介護事業を展開し、被災の相談にも応じる方針を決めた。

新たな福祉事業のスタートに向け、事務スタッフと打ち合わせをする東さん（右）＝熊本県益城町

早ければ6月にも新事業をスタートさせる。代表の東さんは「仮設住宅を退去した後の住居探しなど、地震から2年を経てもさまざまな問題が生じている。組織的な体制を整える必要がある」と指摘する。

自らも車いすで生活する東さんは弁護士としても活動し、東日本大震災の東北の被災地を何度も訪れた。

「地域で孤立し、避難所に受け入れてもらえない障害者もいた」と痛感。熊本地震後、教授として勤務する熊本学園大（熊本市）の施設を、障害者も利用できる避難所として運営した。

益城町で福祉事業に参入するのも、福祉サービスも十分に受けられず孤立する人を少しでも減らしたいとの思いがあるからだ。東さんは「一過性の支援ではなく、日頃の取り組みの中で障害者と地域のつながりをつくり出したい」と抱負を語った。



歩幅に合う英語教育を

読売新聞 2018年04月21日

自費出版した本を手に「家庭や教育現場で読み書き障害を考えるきっかけにしてほしい」と話す十川さん（徳島市で）

◇徳島の十川さん自費出版

◇発達性読み書き障害 子どもの現状など紹介

徳島市で英語教室を開く十川泰子さん（53）が、知能には問題がないが、読み書きだけが困難な「発達性読み書き障害」の子どもに対する英語教育法をまとめた本「Literacy Seeds（リテラシー・シーズ）英語読み書きの種」を自費出版した。十川さんは「一人一人の歩幅に合った英語教育を考えるのに役立ててほしい」としている。（三野慎子）

同障害を持つ子どもは「勉強が苦手」「本人の努力不足」のような誤解や偏見を持たれやすいという。2005年から英語教室を開く十川さんも同様の誤解をしていた。

かつて教えていた女子生徒に英単語の頭文字をカードで示し、単語を書かせる問題を出したところ、解けなかった。物覚えがよくないと思い込み、繰り返し問題を解かせたが改善されず解決の糸口が見つからないまま、生徒は高校受験前に教室をやめてしまった。

後になって、読み書きの障害かもしれないと考えるようになり、独学で学ぶようになった。そして2013年にはマレーシアの大学院に留学し、特別支援教育を学び、同障害に関する修士論文を書き上げた。

今回、「自分の経験や学びが役立てば」と、1冊の本にまとめた。内容は、前半に読み書きが困難な子どもたちを取り巻く現状を説明。そして後半で、聞いてまねをする学習法に重点を置くことなど、学校や家庭で実践できる指導法を紹介している。

十川さんは「英語教育に悩む家族や先生の手が届き、教え方のヒントになればうれしい」と話している。

B6判、106ページで、税込み1512円。インターネット通販サイト「アマゾン」で購入できる。

障害者のヘルパー代筆投票認める 公選法に反し、大阪府豊中市選管は「職員のミス」

産経新聞 2018年4月21日

公職選挙法で代筆を担う補助者を選挙管理委員会職員らに限定する規定があるのに、大阪府豊中市選管が、市長選、市議補選、府議豊中市選挙区補選の期日前投票で、先天性脳性まひの男性が投票した際、ヘルパーによる代筆投票を認めるミスがあったことが20日、わかった。

この男性は中田泰博さん(45)。中田さんは、一昨年夏の参院選でヘルパーによる代筆投票を市選管に認められず、投票を断念。「投票の秘密」を保障した憲法15条に違反しているとして、自ら選んだヘルパーの協力で投票する権利の確認などを国に求めて係争中だった。

原告弁護団によると、19日の期日前投票では、ヘルパーによる代筆投票が認められたという。市選管は「現場の職員のミスで、見解を変えたわけではない」と説明、有効投票として扱うとしている。

「福祉・介護」破綻が急増 成長市場のはずが...トリプルパンチで淘汰が加速 (1/4 ページ)

Sankeibiz 2018年4月21日

2017年度の「老人福祉・介護事業」倒産は、介護保険法が施行された2000年度以降、最多の115件に達した。高齢化社会の到来で成長市場と期待されている老人福祉・介護事業だが、介護職員の人手不足が慢性化する中で業界内の淘汰が加速している。(東京商工リサーチ特別レポート)



調査対象の老人福祉・介護事業は、有料老人ホーム、通所・短期入所介護事業、訪問介護事業などを含む。

2017年度の老人福祉・介護事業の倒産件数は115件(前年度比7.4%増)で、前年度(107件)を上回り、年度ベースで過去最多になった。

※写真はイメージです (Getty Images)

◆競争激化、介護報酬改定、人件費上昇の三重苦でダメージ

負債総額は147億4100万円(前年度比38.7%増、前年度106億2700万円)で、前年度より約4割増になった。これは負債10億円以上が4件(前年度3件)発生したことが影響した。ただ、全体では負債1億円未満が93件(前年度比8.1%増、前年度86件)と全体の8割を占めており、小規模事業者の倒産が大半だった。

2017年度の老人福祉・介護事業の倒産を四半期別で見ると、2017年4-6月が26件(前年同期29件)、7-9月が31件(同33件)と、前半は減少が続いた。だが、後半に入ると10-12月が40件(同31件)、2018年1-3月が18件(同14件)と年度後半に増勢に転じ、今後の展開に目を離せなくなってきた。

倒産の増加要因としては、(1)同業他社との競争激化から経営力、資金力が劣る業者の淘汰が加速、(2)2015年度の介護報酬の実質マイナス改定による収益への影響、(3)介護職員不足の中で離職を防ぐための人件費上昇、などが挙げられる。

◆景気と逆行する介護業界

特に、介護業界の人手不足は「国内景気が悪い時の採用は順調だが、好況になると人材が他業種へ流出する」など、景気と逆行する傾向がある。とりわけ、小規模事業者は業績低迷に、資金的な制約も抱えており、一層深刻さが増している。

業種別では、「訪問介護事業」の47件(前年度45件)を筆頭にして、デイサービスなどの「通所・短期入所介護事業」が44件(同39件)、「有料老人ホーム」が9件(同1

1件)、サービス付き高齢者住宅などを含む「その他の老人福祉・介護事業」が8件(同8件)などだった。

設立別では、2012年度以降に設立された事業者が45件(構成比39.1%)と約4割を占め、設立5年以内の新規事業者が目立った。

また従業員数では、5人未満が70件(前年度78件)で、全体の6割(構成比60.8%)を占めた。小規模で資金調達力や社内体制が未整備のため、淘汰される新規事業者の実態が浮かび上がる。

◆安易な起業や異業種参入での失敗が急増

原因別では、最多の販売不振(業績不振)が52件(前年度67件)と前年度を下回ったのに対し、「事業上の失敗」が26件(同19件)と増勢が目立った。

これは、安易な起業や本業不振のため異業種からの参入など、事前準備や事業計画が甘い小・零細規模の業者が思惑通りに業績を上げられず経営に行き詰まったケースが多いとみられる。

形態別では、事業消滅型の破産が107件(前年度102件)と全体の9割(構成比93.0%)を占めた。一方、再建型の民事再生法は3件(前年度1件)にとどまり、業績不振に陥った事業者の再建が難しいことを反映した。

地区別では、全国9地区すべてで倒産が発生した。最多は関東の39件で、次いで近畿22件、中部17件、九州15件、北海道7件、中国5件、東北4件、北陸4件、四国2

件の順。前年度比では、北海道、中部、北陸、四国の4地区で前年度を上回った。

◆「給付適正化」と「収益優先」に落とし穴

厚労省の社会保障審議会・介護給付費分科会の諮問に沿って2018年度の介護報酬改定は、0.54%引き上げられた。

ただ、プラス改定になったとはいえサービス種別によって明暗が分かれ、通所介護では事業規模やサービス提供時間に応じた基本報酬の細分化など「給付適正化」も進められる。さらに、医療と介護の連携が強化されたことにより今後は新規参入の障壁が高まることも予想される。

老人福祉・介護業界の顧客は、身体介護や生活援助が必要な高齢者を中心にするため、採算重視だけでなく顧客が心身ともに満足できる良質なサービス提供が求められる。

だが、最近「収益優先」に追いやられて介護報酬の不正請求や法令違反などで指定取消処分を受ける施設や事業所が過去最多を記録している。こうした実態を背景に、経営体制の未整備や経営基盤の脆弱な事業者が「ふるい」にかけられる状況は避けられない部分でもある。老人福祉・介護業界は、サービスの質向上が課題だけに、引き続き今後の動向から目が離せない。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

